

歴史は未来の羅針盤



近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」は、当面の間は入館料を無料としています。開館時間は午前9時から午後4時まで、休館日は毎週月・火曜日(祝日・休日)の場合はその翌日、年末年始等になります。ぜひともご来館ください。『近江日野の歴史』全九巻は「旧山中正吉邸」、教育委員会事務局や各公民館にて一冊四、〇〇〇円で好評発売中です。ぜひお買い求めください。

先月、西大路に近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」が開館しました。日野の歴史や文化に関する資料を保存・活用し、それらを生かした体験や交流、情報発信の拠点として活用していきます。今回は、旧山中正吉邸のみどころと、その主であった山中正吉家について紹介いたします。

旧山中正吉邸のみどころ

旧山中正吉邸は、馬見岡綿向神社の参道に面し、約一三〇〇㎡ある敷地には、主屋・座敷・新座敷・洋間をはじめ蔵三棟・井戸屋形・納屋などの建物が建っています。参道に面する西側は門と板塀が連なり、主屋の板塀には棧敷窓が設けられています。

主屋は切妻造一部二階建てで、田の字型の四ツ間取りを基本としています。主屋の玄関から二ワに入ると、用心下駄が置かれ、柱には「厳儉約」の札が掲げられています。



▲「旧山中正吉邸」の洋間

ます。奥二ワには黒タイル貼りの大釜付の五口のおくどさんがあり、煙の吸い込みを調節するケロップを備えています。新座敷は格式の高い数奇屋風書院造で、東側に綿向山を借景とした広大な庭園が付き、四季の移ろいを楽しめます。応接室として使われた洋間はマントルピースを備えた重厚な造りを

しており、レトロな雰囲気を感じられます。

主屋は江戸時代後期に建てられ、昭和十三(一九三八)年頃に新座敷・洋間などの増築と同時に全面的に改装されています。部屋数の多さ、建築様式、調度品などから日野商人の本宅での暮らしぶりを間近に感じることが出来ます。

山中正吉家のあゆみ

旧山中正吉邸の主であった山中正吉家は、現在の静岡県富士宮市で酒・醤油の醸造を営んだ日野商人です。現在、近江日野商人館となっている山中兵右衛門家の分家です。

初代正吉は文化六(一八〇九)年に生まれ、文政年間(一八一八～三〇)に駿河国天間村(静岡県富士市)で酒造業を始めます。一時、閉店しますが、駿河国大宮町(静岡県富士宮市)で酒造を再開し、財を築きます。当初は大宮町の酒

屋から酒株と店を借りて、鈴木正吉の名前で営業していましたが、安政三(一八五六)年に買い取り、店名前を中屋と改めました。中屋では酒・焼酎・醤油・味噌・酢を製造・販売していました。

明治時代に入ると、山中家は富士宮周辺を中心に静岡県内に出店していき、大正時代の終わりに静岡県内有数の酒造家に成長しました。戦後は、昭和三十年に株式会社山中正吉商店となり、平成九年(一九九七)に富士高砂酒造株式会社になっています。

初代正吉は絵画をよくした人で、西大路の曳山の見送幕の下絵を描いたとされています。また、描いた絵が宮内省(当時の宮内庁)の買上げとなり、その代金を元手にして西大路村内の一八か所に石橋をかけたと伝えられています。

代々の当主も地域への貢献を行いました。例えば、三代目正吉は大正時代から昭和時代初めにかけて、西大路村長や滋賀県会議長を歴任しています。

また、大正十(一九二二)年には、バス会社として操業した綿向自動車取締役に就任し、その経営にあたっています。